

2017 JR総連春闘交渉集約にあたっての中央本部見解

2017年3月17日
日本貨物鉄道労働組合

(1) 中央本部は2月14日に「2017年度新賃金要求」(申第6号)及び「諸要求改善に向けた申し入れ」(申第7号)を行い、2017春闘はJR総連春闘の方針のもと、ベースアップ6000円の要求を掲げ、この間の職場からの闘いを背景に、①ベアにこだわること。②昨年の積み残しを実施すること。③55歳以降の賃金ダウンの解消。④諸要求の改善の4本柱を掲げて労使協議・交渉を精力的に展開してきました。

(2) 会社は、今年度の落ち着き見込みとして、経常利益は約80億円、鉄道事業部門は+0億円となり、過去最高の収益を上げることが想定されます。現在、新たな5年間の「中期経営計画2021」及び「2017年度事業計画」を策定し、来年度以降も安定的な運輸収入の確保をはじめとして、鉄道事業部門の黒字を継続的に計上する計画としています。

こうした中において、格差是正、安全確立、教育・技術継承の充実を中心に労使協議・団体交渉を積み重ねて来ました。特に今春闘は鉄道事業部門の黒字達成が確実視される中で、「17年連続ベアゼロ」「手当の削減」「低額の期末手当」「働き度向上施策」等に対して血と汗を流し、必死にこの3年間に及ぶ貨物労組組合員の苦闘によって、結果を出すところまで来ました。同時に、2年間の新規採用停止によって職場では特休買い上げや年休抑制等の要員不足のなか、安全で安定した輸送を担っている現実を強く訴えてきました。

(3) 回答指定日である本日、19時より最終交渉に臨み、会社は席上、「定期昇給4号俸」については実施する。「昨年の積み残しである平成13年度以前の社員に対して1号俸の加算」「55歳以上の賃上げ」を実施する。但しベアについては線路使用料や修繕費の増加があり、経済的にも先行きが不透明として、実施できないとの回答を示しました。

中央本部はこの間の交渉において、①昨年の積み残しの実施を確認したこと。②55歳以降の社員の賃金改善について引き上げることを確認したこと。③この間、削減された諸要求について一部改善したこと。④経営陣の経営努力を厳しく指摘し、今後の安全確立や年功型賃金の維持、経営の自立にむけて労働組合としても汗をかいていくことを確認し、妥結しました。

(4) JR貨物労組は、2017春闘を中央・地方・職場、全国部会が一体となって闘いを推し進め、3月15日の統一職場集会には62機関1000名を超える組合員が結集して職場から闘いをつくってきました。また貨物労連の仲間、JR総連の仲間と連帯して「統一要求・統一闘争」を掲げて連帯した闘いを構築してきました。私たちはたしろかおる応援プロジェクトの総括の中から成果と課題を明確にして春の闘いを創造し、その闘いの教訓を生かす闘いとして、役員・指導部が職場闘争への結集を組合員一人ひとりと膝詰めの議論を展開してきました。職場闘争を背景に、①「昨年の積み残し」についての上積みが出来たこと。②55歳以降の賃金改善がはかれたこと。③諸要求について一定の解決がはかれたことは大きな成果です。特に1号俸の加算は2年越しの賃上げを勝ち取りました。

来年度は「中期経営計画2021」の初年度であり、JR発足30年を迎えます。会社の将来展望を明確にして「職場と仕事と生活を守る」闘いが重要な課題となります。今春闘で培った組織力を更に発揮し、JR貨物改革の闘いを全力で取り組んでいかなくってはなりません。6月には「JR貨物労組結成30周年記念大会」を開催します。更なる職場からの闘いを積み上げて、組織一丸となって前進していくためにも今春闘の総括をしっかり行い、新たな闘いにむけて組織の強化をはかっていこうではありませんか。

この間、2017春闘に対する中央本部への激励と、全ての職場からの闘いに感謝を申しあげます。今後も中央本部は最先頭で闘っていくことを申し述べて中央本部の見解とします。

以上